

リンゴ果実を加害する クロフタモンマダラメイガの生態と防除

研究のねらい

1990年ころから、クロフタモンマダラメイガ幼虫による有袋果におけるナメリ被害が目立ってきた。そこで本種の発生生態を明らかにし、防除の参考に供する。

研究の成果

本種は樹幹の粗皮下、樹皮の割れ目の内側、胴腐らん病斑の下などに薄い繭を作り、その中に主に終齢幼虫の状態で越冬する。幼虫は粗皮下や割れ目の内側に潜み、粗皮と皮部の間や気根束の表面を縦横に食害する。胴腐らん病斑下にも好んで生息する。8月以降、一部は袋内に入って、果実表面をなめるように食害する。一般にはハマキガ類幼虫（ハマキムシ類）による被害（ナメリ果）と混同されている。

本種を薬剤によって防除することは困難である。発生密度を下げるためには、粗皮や樹幹にできた亀裂部分のめくれ上がった皮部を削ったり、胴腐らんの治療を行い、生息場所や越冬場所を少なくすることである。

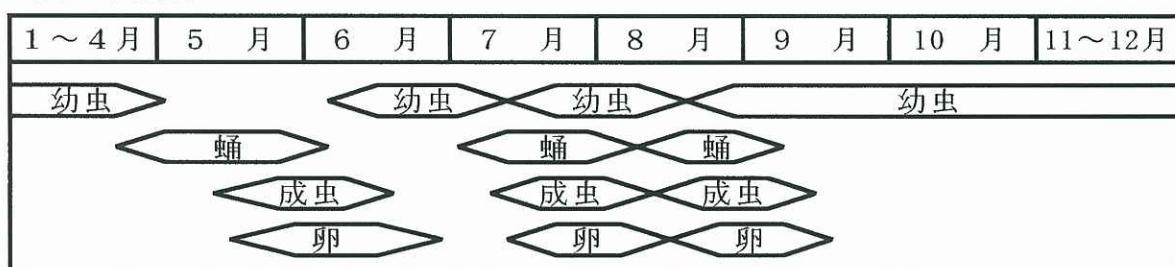


有袋果の被害（除袋後）



果実を食害する終齢幼虫

主要な試験データ



第1図 クロフタモンマダラメイガの周年経過

発表資料

- 病虫肥料部（1995）。りんごの害虫クロフタモンマダラメイガの生態と防除。平成7年度指導奨励事項・指導参考資料：28-29。
- 櫛田俊明（1993）。リンゴ果実の害虫クロフタモンマダラメイガ。青森県りんご試験場 第13回公開試験成果発表会要旨：13-16。